

出版プロジェクト ご案内！



この度、佐藤賢太郎著「我が人生と出会い」をクラウドファンディングにより出版することになりました。ぜひ、友人・知人にお薦めください。(3/23～4/23)。

波乱万丈、捧腹絶倒の面白さです。あなたもどこかに登場しています。

楽しみにお探してください。まずは、[運営サイトへアクセス](#)してください。

[クラウドファンディング - CAMPFIRE \(キャンプファイヤー\)](#)
(camp-fire.jp)

佐藤賢太郎著「我が人生と出会い」のプロジェクトをさがすには、[書籍・雑誌出版のカテゴリーをクリック](#)されると早く見つかります。

[返品についてもいくつかのコースをご用意](#)しました。もちろん佐藤賢太郎のオリジナル作品に加えて、ご当地産の無農薬玄米、下越酒造のお酒や山崎権屋の塩糍もあります。お好みに合わせてお選びください。

お問合せは、刊行委員会(小宮080-1160-8800)まで。

尚、**4/30(金)13:00～** 浦和パルコで**出版を祝う会**を開催します。

2021. 3. 18

ストーンサークルづくりから縄文村構想への背景

森絃一

平成16年(2004)からはじまった「里山アート展」は、コスモ夢舞台にとって事業活動の大きな柱であるが、同時に「縄文の風シンポジウム」も開催してきた。きっかけは、屋敷島遺跡だけでなく、阿賀町各地から土器が出土したことである。石彫作家佐藤賢太郎と我われのパネルディスカッションでの興味は、土器や土偶だけでなく、次第に縄文人の生き方そのものに及んでいった。

そんな折、平成17年(2005)の第2回「縄文の風シンポジウム」に際して、國學院大學の小林達雄先生はメッセージをお寄せ下さった。

縄文の風シンポジウムに寄せて

新潟県立歴史博物館館長 小林達雄

縄文人は自然のなかであって、わけへだてなく、あれこれ好き嫌いを言わず、天与の恵みを食料や道具の材料として利用させていただき姿勢を決して崩すことはなかった。勝手な都合やわがままで自然を略奪するという旧大陸における新石器時代以外の合理主義、効率至上主義を目指す道に背を向け続けてきた。

この縄文姿勢方針一万年の経験が文化的遺伝子として見え隠れしながら継承され、日本的文化を形成してきたのである。文化的遺伝子は、どうもコトバに大きく関与しているらしい。つまり自然との共生とは自然との対話にほかならない。欧米人が真似できない自然に対する感性はこうして生まれたのだ。スイッチョン、チンチロリン、リンリンと秋の虫の声を聴き分けたり、蟬にツクツク法師、鳥に仏法僧を重ねる特技は縄文人以来の結果である。

ところが、この初心を忘れて、昨今急激に自然との浅ましい対決ばかりが目立つようになってきた。動物、植物を死の淵に追いつめ、水や空気を汚して止まる気配も見せない。いまここに「一木一草みなもの言う」自然との対話を復活させなくてはならない。

そして平成18年(2006)4月23日、小林達夫先生は宮尾学芸員と一緒に、佐藤光義さんの先導で阿賀町豊実に来訪された。『蔵・銀河』(江戸末期の安政年間に建造された蔵を改造した縄文館；ここには、佐藤光義さん提供の火焰土器のレプリカや佐藤賢太郎作の土偶のオブジェなどが設置されている)を見学され、ストーンサークルの候補地を視察された。

これが、コスモ夢舞台の当面するストーンサークルづくりの起点であるといえるかもしれない。

あれから16年の歳月が流れている。その間、コスモ夢舞台は平成22年(2010)5月にNPO法人となり、その設立目的を“活力ある地域づくりと個人の活力再生に関する事業を行い、少子高齢化の進む過疎社会と都市との交流を促進する”と明確にして

いる。

「里山アート展」は今年で第18回目の開催となる。「循環・再生・創造」、「アートと生活」とテーマは変わっても、「アートで何ができるか」は石彫作家 佐藤賢太郎と我われの変わらぬ課題である。さらにシンポジウムでは、「真の豊かさとは何か？」を問い続けている。その原点には、いつも縄文人の生き方がある。

一方、昨年来のコロナ禍で外国人の来訪者は途切れているが、7年前から外国人ウーファアの受入れを始めたところ、大変な人気となっている（延べ20数か国60名以上の実績）。彼らは共通して豊実の大自然と佐藤賢太郎的生き方、玄米菜食中心の料理のおいしさを絶賛している。そして、アートへの関心も高い。

そこで3年前から「奥阿賀国際アートフェスタ」を企画して、彼らの協力を仰ぎながら、そこに「スコープ・ボランティア」や「ふるさとワーキング・ホリデー」に参加する日本の若者と交流する国際親善の機会とした。

第3回の今年は、ワークショップとしてストーンサークルづくりを考えている。これもたして、予定通りにことが運ぶかどうかは分からないが、今回は大きな構想の基盤づくりとなる。縄文のシンボルとしてのストーンサークルエリアの構築である。

先々のことを考えると、我われだけでなく地元の人びとや町村役場、行政の皆さんのご協力も仰がなければならない。労力や運用資金はどうするのか、最適なクラウドファンディングの事業主は等々、問題点は山ほどある。

それこそ、ガウディのサグラダファミリアではないが、ストーンサークルづくりや縄文村構想も1年や2年で完成するはずもない。じっくりと実行可能な計画を積み上げて、過疎地域の活性化や魅力ある田舎づくりに結び付け、やがては都市の人びとや諸外国の人びととの新しい交流空間、縄文村として育ててほしいものである。

ストーンサークルのあるパワースポットが豊実のうりとなり、縄文村が阿賀町の枕詞となる日を、佐藤さんと仲間たちと夢見続けていきたい。

2021. 3. 22

味噌づくりに参加して

鈴木隆雄

3月21日(日)、コスモ夢舞台の令和2年度を締めくくるイベント味噌づくりを、阿賀町豊実夢工房で今年も無事実施することができました。今回はまちづくり学校金子さん、池井さんグループ、Chika プロモーションの伊藤千賀さんグループ、コスモ夢舞台からは大野さん、飯野さん親子(直志くん小5)、小宮さん、長谷川さん、鈴木など16名の参加者で行いました。

雪解けのこの時期に行う味噌づくりは、北国の厳しい冬から、待ち遠しかった春の訪れに心躍る一年のスタートになるイベントでもあります。半面、風雪に耐えきれず傷んだ建物の修理も始まります。石舞台の屋根が雪の重みと強風につぶされてその解体作業も並行して行いました。味噌づくりと解体作業と並行して行うことが出来たのも人手のなせる業で、共同作業と連帯を強く感じた次第です。

昼には作業も終わり、農家レストラン和彩館で、佐藤マキ子さんの手作り玄米菜食料理を基調とした特性スープ付きの昼食をふるまっていただきました。食事に舌鼓をうちながら、先日 TBS テレビで放映された「全国ボロいい宿」に出演の佐藤さんご夫妻と和彩館や豊実の風景をビデオで鑑賞し、改めて感動を新たにしました次第です。

その後、話が弾んで、佐藤さんから第3回奥阿賀国際アートフェスタに出展するストーンサークルやその延長線上を見据えた縄文村構想が話されました。まちづくり学校、Chika プロモーションの方々との活発な意見交換もありました。

4月30日さいたま市浦和で行われる「我が人生と出会い」の出版記念パーティ、5月30日から始まる第3回奥阿賀国際アートフェスタでお会いできることを楽しみにしています。